

県中農林ニュース

ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動ニュース



〔 どちらも須賀川市のユキヤナギです！
左は満開の様子、右は出荷前のユキヤナギです。〕

第 21 号（令和 3 年 1 月 6 日発行）

～目次～

- 年頭挨拶 P. 1
- 特集 P. 2
- 農林業関係の動き P. 3-8
- 頑張る農林業者 P. 8
- おいしい6次化商品 P. 9

編集・発行 福島県県中農林事務所

県中農林事務所長 年頭挨拶

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災から 10 年目となる節目の年であり、また、一昨年の台風第 19 号等災害からの一日も早い復旧、営農再開を目指しておりましたところ、新型コロナウイルス感染症が拡大により、私たちの生活様式も一変し、農林水産業にとっても厳しい一年となりました。

そのような中であって、当管内では、県立岩瀬農業高校がGLOBALG. A. P. 認証取得品目数単独日本一の快挙や県オリジナル米「福、笑い」の先行販売などの明るい話題にも包まれた一年でした。

さて今年の干支は「丑」となります。「うし」は元来農業には欠かせない生きもので、ゆっくりでも着実に歩みを進め、大きな成果をもたらすと伝えられております。

この「丑年」にあやかり、県中地方農林水産業の光り輝く”あした”のために、『東日本大震災及び原子力災害からの復興の加速化』はもとより、『農林業の担い手の確保・育成と生産基盤の整備』、『産地体制の強化と農林水産物の魅力向上・発信による需要の創出』、『豊かで活力ある農山村の形成』を柱として、“ひとづくり”、“ものづくり”、“地域づくり”の歩みを着実に進め、農林水産業の振興に取り組んでまいりますので、本年も皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



県中農林事務所長

かくらい かつゆき
家久来 克之

～GAPとは～

Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略称で、農業生産において、食品安全や環境保全、労働安全等を確保するための取組です。

また、GAPは東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準となっています。

～特集～

新しい福島県農林水産業振興計画策定に係る意見交換会について

令和4年度からの新たな県の農林水産業振興計画の策定にあたり、農林業者の意見を反映させることを目的に、10月30日に、県郡山合同庁舎（郡山市）において「新しい福島県農林水産業振興計画策定にかかる意見交換会」を開催しました。

当日は、農業（水稲・園芸・畜産）、林業（製材・しいたけ）、6次化やグリーン・ツーリズム等、それぞれの分野で活躍されている6名の方々と農業振興審議会の中田委員に御出席いただき、農林企画課から県全体の計画概要、県中農林事務所から県中地方の計画概要を説明の後、参加者の皆様から「復興」「ひと」「もの」「地域」の分野において御意見をいただきました。

特に、担い手の確保については「就農者の受け皿（法人）が必要」や「もうかる農林水産業のモデルケースの創出・PRが必要」等の貴重な意見をいただきました。

今後も関係者の皆様と連携を図りながら、あらゆる主体がそれぞれの強みを発揮できる計画となるよう取り組んでまいります。

○主な意見

復興

被災地域における農林業者の活動再開等

- ・都路地区の営農再開には、担い手確保や生産体制等、幅広い支援が必要

ひと

担い手の確保・育成、生産基盤の整備等

- ・新規就農者の受け皿（法人等）が必要
- ・もうかる農林水産業のモデルケースの創出・PRが必要
- ・水田の大規模化など、自動化（トラクターやコンバイン）に向けた対応が必要

もの

産地体制の強化、農林水産物の魅力向上・発信等

- ・認証GAPの消費者への理解促進について、どんな文言で、どんな形で（生産者による対面販売等）PRしていくのか、PR方法の工夫が必要

地域

農山村の多面的機能の発揮、6次化、グリーン・ツーリズム等

- ・6次化商品開発の補助金について、開発・販売が途中で終わることのないように、補助後の状況把握等が大切



【積極的な意見交換が行われました】



【座長：家久来所長】

～農林業関係の動き（トピックス）～

畑の学校で今年度の収穫祭・閉校式を行いました！ 【農村整備部】

「畑の学校」は、『農育』の推進を図るとともに、子供たちとの交流を通じて地域住民等の活動を活性化させることを目的として、2年前より県立たむら支援学校(田村市)で実施しています。

今年度の「畑の学校」は6月12日に開校式を行い、11月9日に約半年かけて育てたにんじん、さといも、白菜、大根の収穫作業を行いました。また、11月13日には、収穫祭と閉校式を行い、1年間の活動を振り返り、収穫した野菜を使用した豚汁をいただきました。

例年、県内で田んぼの学校・畑の学校の活動を実施している学校が一同に会して活動成果等を発表する合同成果発表会を行っていますが、今年度は「かべ新聞コンクール」として2月から県ホームページに掲載、県庁等に展示される予定です。



【収穫！！】



【みんなで育てた野菜をおいしくいただきました！】

田村バイオマス発電所の竣工式が行われました！ 【森林林業部】

株式会社田村バイオマスエナジーが田村市大越町の市産業団地に建設していた「田村バイオマス発電所」が完成しました。この発電所は、森林由来の木質チップを燃料とする木質バイオマス発電施設であり、11月12日に竣工式が行われ、式には約70名が出席しました。

田村バイオマスエナジーの^{こびやま}小檜山代表取締役より「発電を通じて林業発展に貢献し、地域に根ざした企業を目指したい」とあいさつがあり、^{ほんだ}本田田村市長が祝辞を述べ、関係者がテープカットを行いました。

営業運転は、今春を目指しており、中通りを中心とした未利用間伐材などを燃料とする予定です。

最大出力は約7,100kWで、一般家庭15,620世帯分の年間消費電力量に相当します。

将来は、電気だけではなく廃熱利用も検討されており、田村市近郊の林業や地域経済の活性化に貢献することが期待されます。



【関係者によるテープカットの様子】

大盛況！「ふくしま農業人フェア」 【農業振興普及部】

11月15日に、ビッグパレットふくしま（郡山市）において就農相談会「ふくしま農業人フェア」（県農業担い手課主催）が開催されました。フェアには、県内より40の自治体や農業法人などが出展し、就農を希望する社会人や学生など約300名が相談に訪れました。

当管内からは、独立就農コーナーに3市町（郡山市、須賀川市、鏡石町）・1団体（田村地域就農支援プロジェクト）、雇用就農コーナーに5法人が出展し、独立就農コーナーには延べ59名、雇用就農コーナーに延べ93名の相談者がブースを訪れました。

相談会では、就農前の研修制度や独立自営就農時のサポート事業、制度資金、農地取得、雇用就農などについて活発な情報交換が行われ、就農への高い関心が感じられました。



【入場手続をする来場者の列】



【就農相談の様子】

ふくなくすい一つ消費拡大キャンペーン第1期抽選会と令和2年度第2回県中地方・地域産業6次化ネットワーク交流会、第2回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました！ 【企画部】

「ふくなくすい一つ」の知名度向上と消費拡大を目的としたプレゼント企画「ふくなくすい一つ消費拡大キャンペーン」の第1期抽選会を11月16日に開催しました。

応募者122名（340口）の中から、^{かくらい}家久来県中農林事務所長及び「ふくなくすい一つ」開発事業者2名の計3名による抽選を行い、20名の当選者を決定し、当選者には、ふくなくすい一つを中心としたお菓子の詰め合わせをお送りしました。

また、抽選会の後に、6次化ネットワーク交流会と特産品創出クラスター分科会を開催し、交流会では、株式会社スペースワン（郡山市）の^{おおくぼなおこ}大久保直子さんを講師にお迎えし、「ブランディングからはじめるパッケージデザイン」をテーマとした講演と、参加者が持ち寄った既存商品に対して具体的なパッケージ改良案を示していただき、パッケージの重要性について再認識いたしました。

続いて、分科会では、5事業者10品の6次化商品の試食と求評を行い、各事業者はいただいた意見を参考に、今後の商品開発・改良に取り組んでいくこととしました。



【当選者が決定しました！】



【既存パッケージへのアドバイスをいただきました】

県中地方特定家畜伝染病防疫演習を実施しました！【農業振興普及部】

11月25日に、福島県農業共済組合いわせ石川支所（玉川村）において、県中特定家畜伝染病防疫演習を実施しました。

管内各市町村やJA、警察署、国・県関係機関等約100名が参加し、特定家畜伝染病の概要や発生時の対応、野生動物における発生状況について座学を行ったのち分科会形式で作業内容の確認を行いました。

演習では、動員者の集合から作業準備、農場内作業、消毒作業までの流れを確認し、参加者は理解を深めました。

参加者からは、「防護服の着脱が最も難しく感じた」、「豚の追い込み等、実際の現場はメンタル的にきついと感じた」などの意見が寄せられました。

今後も、家畜伝染病発生予防に係る飼養衛生管理基準遵守の呼びかけと、有事の際の体制整備に努めていきます。



【動員者受付の演習】



【子豚（模型）を運搬する参加者】

県中地方園芸振興セミナーを開催しました！【農業振興普及部】

11月27日に、県三春合同庁舎（三春町）において、トマトの安定生産をテーマに県中地方園芸振興セミナーを開催しました。

当管内は県内有数のトマト産地ですが、近年、梅雨期の低温や日照不足、夏期の猛暑などの影響により安定した生産が厳しくなっています。

そこで、栽培管理のポイント等を全国各地の生産地を巡りアドバイスを行っている後藤敏美さん（青森県）を講師にお迎えし、夏秋トマトの栽培技術のポイントを講演いただきました。

セミナーでは多くの生産者から質問が出されるなど、活発な意見交換が行われ、次年度の栽培に向けて期待されるようです。

引き続き、栽培面を中心に支援を行い、園芸振興を進めてまいります。



【セミナーには約90名が参加しました】



【熱のこもった後藤さんの講演】

令和2年度食品表示法研修会を開催しました！【企画部】

12月7日に、県農業総合センター（郡山市）において、令和2年度食品表示法研修会を開催しました。

県中地域の農産物の加工グループや直売所関係者、直販を行う農業者の方などを対象に、食品表示法と食品表示の仕方について理解を深めていただくことを目的として毎年開催しているもので、名称・原材料名・原産地表示等の「品質事項」について当所担当者から、アレルギー・賞味期限等の「衛生事項」と栄養成分表示等の「保健事項」について県中保健福祉事務所の担当者から説明しました。

受講者の皆様が加工・販売を行うにあたっての一助となりますことを期待いたします。



【食品表示法関係を学びました】

GAP取得促進研修会を開催しました！【農業振興普及部】

12月14日に、県郡山合同庁舎（郡山市）において、当管内の農業者による第三者認証GAP取得の取組を加速させることを目的に、県中地方GAP取得促進研修会を開催しました。

研修会には、GAP取得の意思がある農業者等13名の他、関係機関などの出席がありました。GAP指導者より、現地審査や審査のポイントについて説明をいただくとともに、当部より実際の取得事例の紹介や現場の写真を用いて模擬GAPの実践などワークショップを行いました。

ワークショップでは、参加者同士で意見を交換し合うなど、GAP取得に向けての熱意が感じられました。

引き続き、GAP取得に向け支援してまいります。



【GAP指導者からポイントを学びました】

コロナ禍における農林水産物のPRや販売促進等の取組について！ 【企画部】

新型コロナウイルス感染拡大により、イベント出展等でのPRを自粛せざるを得ない状況が続いておりますが、当所ではコロナ禍でもできるPR方法として、県内4つの民放テレビ局より協力をいただき県産農林水産物のPRを実施しました。テレビ番組内の視聴者プレゼントやテレビ局のアプリを活用したプレゼントコーナーで、県中管内の市町村の地元産農産物や6次化商品を紹介しプレゼントすることで、県産農林水産物等の魅力を多くの県民の皆様に伝えることができました。

また、消費が落ち込んだ福島牛等を当管内の県出先機関職員が購入して“食べて応援”などの取り組みも行いました。

これからも、コロナに負けずに県産農林水産物等の消費拡大及び販売促進等に取り組んでまいります。

第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン農林水産物PRとプレゼント抽選会（第2期）を開催しました！ 【企画部】

県産農林水産物の消費拡大及び販売促進のため、「認証GAP」をテーマに「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

今回は、12月18日～19日の2日間、福島牛焼肉 牛豊（朝日店・八山田店）において、ごはんをF G A P取得のASAKAMAI887に替えて約500名の方へ提供し、ノベルティをプレゼントするなど、ASAKAMAI887のおいしさや魅力と認証GAPを知っていただくことができました。また、計200名の方にJ G A P取得のしいたけ（生産者：全農福島しいたけ販売協議会）のプレゼントも行いました。お客様からは「ごはんが甘くておいしかった」、「贈り物に購入してみたい」との感想がありました。

～ASAKAMAI887とは～

郡山市産コシヒカリあさか舞の最高級ブランド米で、米作りにかかる88の手間と7つの独自の生産基準（食味値88点以上、タンパク質含有量6.1%以下、ふるい目2.0ミリ、整粒歩合80%以上、特別栽培米、GAPに取り組むこと、エコファーマー認定者）を設けて生産されたお米です。

プレゼント抽選会（第2期）では、県中地方の「がんばろう ふくしま！」応援店のうち22常設直売所の購買者を対象に、12月16日に、^か久来^ら県中農林事務所長の抽選により応募者324名（1,639口）から当選者30名を決定しました。

当選者へは、「新米「福、笑い」とごはんのおとも」をテーマとする詰め合わせ又はいちご狩りチケットを1月中にお送りしますので、お楽しみにお待ちください。

今年度もたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。



【ASAKAMAI887（2kg）のパッケージ】 【最高級ブランド米に舌鼓！】



【当選者が決まりました！】

コロナ禍における都市と農山村の交流について学びました！ 【企画部】

12月17日に、県郡山合同庁舎（郡山市）において、都市と農山村地域の交流による地域の活性化やネットワークの強化を図る目的に県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク交流会と農家民宿・民泊セミナーを開催しました。

交流会とセミナーでは、一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構の^は花^な垣^が紀^{きの}之^のさ^りさんを講師にお迎えし、コロナ禍での都市と農山村の交流を行う上で、正しい感染予防の基礎知識と対策や全国の事例を交えて講演をいただきました。

続いて、天栄村ふるさと子ども夢学校推進協議会事務局の^む村^ら田^た美^み章^{あき}さんより、国内外の子どもたちを地域一体となって受入れを行っている取組みや当該協議会の推進体制などについて紹介がありました。

また、管内各協議会より今年度の活動について報告があり、参加者同士で情報共有と意見交換を行いました。

今後とも、当管内のグリーン・ツーリズムの推進と農家民宿・民泊の制度周知等を行ってまいります。



【講師の花垣さんより、とても参考になる講演をいただきました】

県オリジナル米「福、笑い」の試食会を開催しました！

【農業振興普及部】

県オリジナルのトップブランド米「福、笑い」の県内外における先行販売（11月10日）にあわせ、県郡山合同庁舎入り口に「福、笑い」のパネルを掲示し、合同庁舎を訪れた県民の皆様に広くPRを行いました。

また、12月11日に開催された、日和田特別栽培米実績検討会にて、「福、笑い」の試食会を実施したところ、出席したベテラン稲作農家より、「福、笑いは甘みや粘りが強くおいしい」との好評価を得ました。

本格栽培初年度となる令和3年度は、郡山市内で新たに数名の生産者が「福、笑い」の栽培に取り組む予定ですので、生産者全員が「福、笑い」の基準をクリア出来るように、引き続き支援してまいります。



【「福、笑い」をほおぼる稲作農家】



【「福、笑い」（2kg）のパッケージ】

～「福、笑い」の基準～

玄米タンパク質含有率 6.4%以下、
ふるい目 1.9 mm以上という厳しい基準が設けられています。

「福、笑い」

HPはこちら



～頑張る農林業者～

■ふくしま中央森林組合 都路事業所 いしいたかひろ 石井貴宏さん（田村市）

石井さんは、ふくしま中央森林組合 都路事業所で森林整備に取り組んでいます。

都路地区は、しいたけ原木生産を中心に林業が盛んな地区でしたが、原発事故の影響によりしいたけ原木としての出荷が出来ない状況にあります。

そのような状況下で、同地区の林業復興に取り組んでいるのが石井さんです。

石井さんは、林業復興のためには、広葉樹林（しいたけ原木林）の再生が必要と考え、萌芽による広葉樹林の更新を積極的に進めるとともに、高性能林業機械を効果的に活用し、伐採搬出から植栽までを一貫して行う作業システムを導入し森林の更新を進めています。

都路地区の森林を見渡すと比較的若い森林を多く目にしますが、これも石井さんが将来の林業振興のためには、今のタイミングで森林を更新するべきと取り組んだ成果です。

この取組は、10年後、20年後に森林の成長とともに形となり、都路地区が原発事故前のように県内で最も盛んな林業地として復活してくれるものと確信しております。



【勤務中の石井さん】

～おいしい6次化商品～

里の菓子処よしだ（平田村）の「絹いもサブレ」

「絹いもサブレ」は、平田村産のひらたシルクのパウダーを使ったさつまいもの甘みの強いさっくりとしたサブレです。道の駅ひらたから「ひらたシルクを使った6次化商品を開発して欲しい」という要望を受けて開発されました。

店主の吉田さんは、さつまいもを使った商品が多い他県に視察に行きイメージを膨らませた上で、何度も試作を繰り返し、通年販売ができて日持ちのする本商品を完成させました。

本商品は、ふくなかすい一つ消費拡大キャンペーン第1期抽選会の観覧者特典や、同キャンペーン第1期の景品として採用されました。

絹いもサブレと同時に開発した「すいと絹ポテト」は、生のひらたシルクをペーストにして使用するため、11月下旬からゴールデンウィークまでの期間限定発売です。ぜひ、サブレと合わせて、さつまいもの甘みを味わってみてください。



【店舗や道の駅ひらたで購入できます！】

里の菓子処よしだ

〒963-8202

福島県石川郡平田村大字上蓬田字下槍鼻8

電話・FAX 0247-55-3302



ふくなか
すい一つ

【ふくなかすい一つのロゴマーク】

～ふくなかすい一つとは？～

県中地域・福島県産の農産物を使って、県中地域の事業者が作ったお菓子を表す名称です。

ふくなかすい一つのロゴマークの商品を見かけた際にはぜひご賞味ください！



お問い合わせ
はこちら！

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314